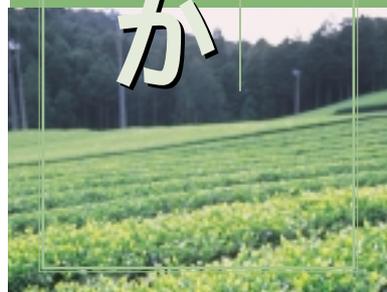


多収の晩生品種、共同工場で注目

さわみずか



「さわみずか」は、「やぶきた」と「ふじみどり」の優れた特徴を取り入れた晩生品種で、樹勢が強く、高品質・多収性のため、共同工場生産者を中心に注目を浴びている品種のひとつです。

品種の来歴と特徴

静岡県茶業試験場で、昭和41年に「やぶきた」と「ふじみどり」の交雑から選抜され、平成7年に種苗法による品種登録が行われたものです。「さわみずか」は、摘採期が「やぶきた」より6日遅い晩生種です。樹姿は開張型で、樹勢は強く、生育がきわめて優れます。収量性は、「やぶきた」に比べて著しく多く、耐寒性の赤枯れ抵抗性は中、耐病性の炭そ病には「やぶきた」の強「強」のものです。

品質の特性

荒茶の形状は細く、色沢は濃緑で、良好ですが、浅蒸しでは、やや赤味を帯び、強い渋味がでることがあります。香気は、「やぶきた」と異なり、清涼感のあるよい香りを持ち、水色も「やぶきた」と比べ遜色ないものです。滋味は、普通煎茶において、やや渋味が感じられ、さわやかさがあります。

栽培上の注意点

樹勢が旺盛で、樹姿が開張型、初期生育も優れるため、幼木期からの仕立ては容易です。しかし、裂傷型凍害に弱いため、幼木期には防寒に注意する必要があります。

加工上の注意点

新芽が細く、製品の形状は良好、色沢も濃緑ですが、赤味を帯びることがあります。そのときには、蒸熱時間をやや長くし、粗揉工程の茶温を低くすることで対処します。

普及および栽培適地

耐寒性は「やぶきた」程度ですが、炭そ病には強く、樹勢も優れるため、温暖地域の山間地、平坦地の機械化栽培体系下での品種組み合わせ栽培に適しています。

苗木の入手方法

種苗法登録品種で、静岡県は県経済連と種苗許諾契約を結び、苗木生産を行っています。農協に申し込めば入手できます。

命名の由来

「さわみずか」は、清らかな沢水の香りをイメージさせ、育成場所周辺の地名である「沢水加(さばか)」も意識し、命名されました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	来歴	
				やぶきた	ふじみどり
さわみずか	1995	有	静岡茶試	やぶきた	ふじみどり

早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性(赤枯れ)	耐病性(炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
晩生	開張	強	多	中上	上	中上	中	やや強